



▲「こどもの読書週間コーナー」にぜひお越しください

「こどもの読書週間」をご存じですか？
「子どもたちにもっと本を！」との願いから、「こどもの読書週間」は1959年（昭和34年）に始まりました。元々は、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間でしたが、今では4月23日～5月12日にな



町生涯学習センター・図書室

☎ 096-234-2447（内線331）

■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 毎週火曜
年末年始

■貸出冊数 1人5冊まで

■貸出期間 15日間



りました。図書室では今月末まで、「こどもの読書週間コーナー」を作り、学年別におすすめの本を紹介しています。今年の「こどもの読書週間」の標語は「ひらいてとじた笑顔がふえた」です。

■0歳児からのおはなし会について
図書室では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を行っています。絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びなど楽しい内容です。子育て中の保護者の皆さん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちとお気軽にご参加ください。

●日時
5月11日（木） 午前10時30分～

●会場
おはなしのへや（甲佐町生涯学習センター図書室内）

新着図書紹介

小説



川のほとりに立つ者は
寺地 はるな 著／双葉社

カフェで働く原田清瀬は、恋人の松木が怪我をして意識が戻らないと病院から連絡を受ける。松木の部屋を訪れた清瀬は彼のノートを見つけ、隠されていた秘密を知ることになり…。他者と交わる痛みとその先の希望を描いた物語。



方舟
夕木 春央 著／講談社

山奥の地下建築を訪れた柵一たちは、居合わせた三人家族とともに地下建築の中で夜を明かすが、地震が発生して閉じ込められ、水が流入する。そんな状況で殺人が起きた…。タイムリミットの中で展開する本格ミステリー。



ラブカは静かに弓を持つ
安壇 美緒 著／集英社

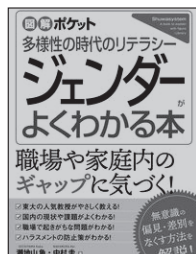
少年時代、チェロを習っていた橘樹（たちばないつき）。音楽教室の不正の証拠を掴むべく潜入捜査へ…。チェロ講師や仲間との絆や信頼関係の中で、徐々に過去の心の傷が癒されてゆく。音楽の持つ力を描いた心震える物語。

一般図書



ぼくはワーパーで控控し、山でシカと闘い、水俣で泣いた
斎藤 幸平 著／KADOKAWA

経済や社会とは？問い直すことが新たな知を生み、世界を変える。日本全国をめぐり、体験し、考えた！統計やデータからは見えない、現場の「声」から未来を考える…。身近な問題に気付かされ、考えるきっかけとなる1冊。



ジェンダーがよくわかる本
瀬地山角・中村 圭 著／秀和システム

無意識の偏見・差別を無くすと、あらゆる年齢性別の人が、職場や家庭でよりよい関係を築くことができる。最低限の常識として知っておくべきジェンダーギャップの基本を、図表を交え分かりやすく解説している入門書。



三流シェフ
三國 清三 著／幻冬舎

北海道・増毛での極貧の幼少期、地獄の厨房とヨーロッパ修行、30歳での開業とバッシング…。時代の寵児と言われた著者が「オテル・ドゥ・ミクニ」を閉店する理由と、料理に捧げた著者の生き様のすべてが詰まった自伝。

甲佐町教育委員会では、令和3年10月に国史跡（しせき）に指定された陣ノ内城跡について、「史跡陣ノ内城跡保存活用計画」（以下、計画という。）の令和5年度末の刊行を目指しています。令和4年度は、有識者4名と町の代表3名で構成される史跡陣ノ内城跡保存活用計画策定委員会（以下、策定委員会という）を設置し、計画の策定に取り組みました。

この計画は、陣ノ内城跡の適正な保存・管理の基本方針やその方法、整備・活用の基本的な考え方や適切な管理運営体制等の方向性をとりまとめ、陣ノ内城跡を「甲佐の財（たから）」としてその価値を高め、歴史学習や地域活動の場としての活用や町を代表する観光資源としての価値づけを行い、次世代に継承することを目的としています。

策定委員会では、これまでに陣ノ内城跡の価値や現状と課題、保存管理などについて審議しました。また、町の歴史に詳しい人やまちづくりに経験のある人など

にもご意見をいただき、計画の充実に努めているところです。

この計画では陣ノ内城跡を核として、その周辺の文化財等を視野に入れた活用についても合わせて議論をしています。

令和5年度は、陣ノ内城跡の活用や整備、運営・体制などについても検討を重ねていく予定です。



▲史跡陣ノ内城跡保存活用計画策定委員会の様子

お問い合わせ先 町社会教育課 ☎ 096-234-2447（内線324）

人権 ～心豊かに暮らすために～

人権に関するDVDのご紹介

甲佐町人権教育推進協議会では、人権について理解を深めてもらうために、人権啓発に関するDVDの貸し出しを行っています。各地区・企業・個人などでぜひご覧ください。

■「破戒」上映時間119分

過去に木下恵介監督、市川崑監督と名だたる巨匠が映画化してきた、島崎藤村の不朽の名作「破戒」が間宮祥太郎主演で60年ぶりに映画化されました。

自らの出自に苦悩しつつも、最後にはある告白をする主人公の葛藤と共に、明治時代の部落出身者への差別を描いた作品です。

●物語

瀬川丑松は、自分が被差別部落出身ということを知り、地元を離れ、ある小学校の教員として奉職する。彼は部落出身であることを隠し通すよう家族から強い戒めを受けていた。丑松は生徒に慕われる良い教師だったが、出自を隠していることに悩んでいた。

丑松は差別の現状に心を乱しつつも、下宿先の土族出身の女性・志保との恋に心を焦がしていた。「なぜ自分の故郷を

語れない。なぜ好きな人に気持ちを伝えることができない」苦しみの中丑松は、被差別部落出身の思想家に傾倒していき「人間はみな等しく尊厳をもつもの」という言葉に強い感動を覚える。そして、ある事件がきっかけとなり、丑松は決意を胸に、教え子たちが待つ最後の教壇へと立つとする。

●お問い合わせ先

町社会教育課
☎ 096-234-2447
（内線324）



▲人権学習の教材などでお役立てください